

地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

- 本協議は、路線バス「十日町車庫前＝新水＝菅沼＝後山＝浦佐駅東口＝魚沼基幹病院線」(以下「魚沼基幹病院線」といいます。) について、令和 6 事業年度 (R5. 10. 1～R6. 9. 30) が終了し、利用者数等の目標達成状況等について自己評価(案)を作成しましたので、その承認を伺うものです。
- 魚沼基幹病院線は、国土交通省の地域公共交通確保維持改善事業による支援(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)を受けて運行しております。
- 同事業による支援を受けた路線は、事業年度の終了後、地域公共交通活性化協議会として事業の実施状況の確認や目標達成状況等の評価を行い、当該評価結果を地方運輸局へ報告する必要があります。
- 魚沼基幹病院線について、令和 6 事業年度が終了し、国土交通省所定の様式(別添 1 及び別添 1－2)により自己評価(案)を作成しましたので、ご確認いただきますようお願いいたします。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 十日町市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
南越後観光バス(株)	十日町車庫前＝新水＝菅沼＝ 後山＝浦佐駅東口＝魚沼基幹 病院線	該当なし	A 事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた。	B ・沿線地域の人口減少によ り、利用者数は、目標「前年 比100%を上回る」(R4.10～ R5.9:8,180人)に対し「前年 比92.9%」(R5.10～R6.9: 7,602人)であった。 ・燃料費の高騰及び利用者 数の減少による収益の悪 化により、収支率は、目標 「前年比100%を上回る」 (R4.10～R5.9:17.8%)に対 し「前年比89.9%」(R5.10～ R6.9:16.0%)であった。 ・地域内フィーダー系統確 保維持費国庫補助金が交 付されることにより、十日町 市の負担額は、目標「前年 比100%を下回る」(R4.10～ R5.9:12,724千円)に対し 「前年比85.6%」(R5.10～ R6.9:10,894千円)であっ た。	市の広報媒体を活用した周知 等を行い、路線の認知度の向 上を図る。 (特記事項) 路線全体の利用者数は左記の とおり減少しているものの、「浦 佐駅東口」及び「魚沼基幹病 院」停留所における乗降者数 は増加(R4.10～R5.9:1,341人、 R5.10～R6.9:1,770人)してお り、「十日町市内から浦佐駅・ 魚沼基幹病院までの直通便」 としての利用は広がってきてい る。

【選択肢】

A: 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。
B: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。
C: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった。

【選択肢】

A: 事業が計画に位置づけられた目標を達成した(する見込み)
B: 事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)
C: 事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名：	十日町市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	十日町市は新潟県南部に位置し、東は南魚沼市、北は小千谷市、西は上越市、南は湯沢町、津南町などと接している。面積は590.39km²、人口は47,191人(R6.11末現在)である。 当市の公共交通利用者は、人口減少や少子高齢化、モータリゼーションの進展などによって減少傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症による行動変容に伴う利用者の減少や、事業者の経営状況の悪化に伴う路線廃止や減便、運転手の高齢化など、公共交通を取り巻く環境は厳しさを増している。 このような中、自動車を運転しない高齢者や高校生などにとって、地域公共交通は重要な移動手段であり、今後も確保していかなければならない。また、高齢化の進行や運転免許証の返納など、今後はさらに公共交通サービスの必要性が高まるものと考えられる。 このため、地域公共交通確保維持事業により、地域内交通(十日町市中心部内及び中山間地域内の移動)の役割を担う地域内フィーダー系統を確保・維持し、地域住民の交通手段の存続を図る必要がある。